

業務実績報告書

提出日 2020年 1月 20日

1. 職名・氏名 教授 清水 聡

2. 学位 学位 修士、専門分野 学術、授与機関 大阪大学、授与年月 S62.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	心理学(2単位 毎年開講) 1・2・3・4年生 (2003年度以前～2019年度)
② 内容・ねらい	本講義は、初めて心理学を学ぶ学生のための基礎的、概説的な心理学である。人間のこころの働きである心理を、心理が表にあらわれた行動を通じて考える。様々な場面で見られる人間の行動を観察し、その結果得られた行動の仕組みや法則性を明らかにすることによって、人間のこころの働きを理解したい。人間および動物を対象とした心理学の諸領域について、代表的なトピックスを取り上げて概説する。適宜実習も行った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	目に見えないこころに関する学問である心理学に初めてふれる学生を主たる対象とするため、「性格」についての講義から始め、その延長上に自分の性格を調べるにテストを実施して、自分の性格に関するレポートを作成させている。まず自分の心理に関して考える作業をさせた後に、一般の人々の心理について考えるという手順で講義を展開して、理解しやすくしている。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	人間関係論(2単位 毎年開講) 1・2・3・4年生 (2003年度～2019年度)
② 内容・ねらい	本講義は、前期に行われた「心理学」の応用編である。「心理学」では主に個人の心の働きについて述べたが、本講義ではそのような心理が社会的場面でどのように表れるかについて考える。具体的には、複数の人間が近くに存在するあるいは一緒に活動している社会的場面において、人間がそのような考え行動するのかについて学ぶ。社会的場面における個人の心理的過程、対人行動、集団と個人の関係等についての代表的トピックスを取り上げて概説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	講義に際して工夫しているのは特に以下の2点である。①講義内容は学生がこれまで身につけてきた一般常識で理解できそうに感じられるため、授業中折に触れ、一般常識よりは一步踏み込んだ内容を講述していることを強調する。②単なる知識以上の理解をしてもらうために、学期の途中で、自分の所属する集団内での人間関係についてのレポートを書かせている。これにより、普段深く意識することの少ない自分を取り巻く人間関係について考えさせるきっかけとさせている。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等	導入ゼミ(1単位 毎年開講) 1年生 (2003年度以前～2019年度)
② 内容・ねらい	本ゼミは、大学に入学したての1年生に対して大学レベルでの勉強の仕方を教えるものである。題材として発達障害の一つである自閉症を取り上げる。自閉症児の発達について描かれたマンガを熟読するところから始めて、その中でインスパイアされた各自の興味に応じて、さらに詳しく調べてみたいところを各自決めて、調べ、皆の前でプレゼンテーションを行い、皆でディスカッションを行う。特定の題材について学問的に調べ、他人にわかりやすく説明することを経験してもらうことを目標とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	「自閉症」という初めて耳にする対象に学生がとっつきやすいようマンガで描かれたものから

スタートし、次の段階では個人で、次いでグループで役割分担をして調べ物をするというように、段階を踏んで新しい知識の領域に踏み込んでいけるよう授業を構成している。その中で、大学レベルでのものの調べ方、発表の仕方について理解を深めてもらっている。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
教養ゼミ (1単位 毎年開講) 1年生 (2003年度以前～2019年度)

② 内容・ねらい
まず発達障害の基本的概念についての講義を行った後、テキストの中で担当部分を決めて、テキストの内容に自分で調べた内容を加えて、担当部分について皆の前でプレゼンテーションを行い、皆でディスカッションを行う。自閉症、ADHD等、成人する以前に発症する障害である発達障害を題材にして、その中の特定の領域について自分で文献を調べ、他人に分かりやすくプレゼンテーションをする練習を行う。その結果として、発達障害の概念が明確になり、さらに個別の発達障害についてより深く知る事を目標とする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
受講する学生の多くが初めてふれるであろう「発達障害」という領域について、基本的概念について一応説明はするが、少し踏み込んだ内容については少人数のグループ内で調べ、発表するという過程を踏んでもらい、その過程で逐次助言を加えることにより、大学レベルでのものの調べ方、発表の仕方について理解を深めてもらっている。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
学術ゼミ (2単位 毎年開講) 2・3・4年生 (2004年度～2019年度)

② 内容・ねらい
本講義は自閉症を中心とした発達障害の基礎および基礎的な心理学を学んだ学生を対象としてやや専門的な内容を扱う。発達障害に関する文献の購読および実際の指導経験などから、彼らに対する実践的な考察を行う事を目標とする。自閉症の中でも知的に遅れのない自閉スペクトラム症、および隣接する発達障害について、文献購読、映像の鑑賞、実際に彼らにつきあってみる等を通じて理解を深めている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
単なる文献の解読だけでなく、関連する教育、福祉分野にまで及んだ話題も広く講述して、発達障害について包括的に理解できることを目指している。また、関係機関の見学、発達障害当事者の自助グループの活動への参加等も促して、実践的な力を身につけることもさせている。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
特別支援教育 (2単位 毎年開講) 1年生 (2019年度)

② 内容・ねらい
本講義は、今年度から教職課程の必修科目に指定された科目である。教員を目指す学生にたいして、特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の特性について理解し、その特性を踏まえた対応を学内のチームおよび学外機関との連携で実施することを理解できるようになることを目標とする。特別支援教育の理念、発達障害を中心とした特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の特性および特性に応じた対応法について概説し、それを行う学内の体制、学外機関との連携の実際等について事例を挙げながら講述する。適宜小グループによる事例検討も行う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1年生を対象とした授業であるため、単なる用語、知識の解説だけではなく、できる限り具体的な事例を挙げたり、小グループによる事例検討を行ったりしながら、特別支援教育の対象となる幼児児童生徒および彼らへの支援の実際のイメージを構築してもらえよう工夫している。

(2)非常勤講師担当科目

① 担当科目名 (単位数) 開講学校名
心理学 福井県立看護専門学校 1年生 (2003年度以前～2019年度)

② 内容・ねらい

本講義は、初めて心理学を学ぶ学生のための基礎的、概説的な心理学である。人間のこころの働きである心理を、心理が表にあらわれた行動を通じて考える。様々な場面で見られる人間の行動を観察し、その結果得られた行動の仕組みや法則性を明らかにすることによって、人間のこころの働きを理解したい。人間および動物を対象とした心理学の諸領域について、代表的なトピックスを取り上げて概説した。適宜実習も行った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

目に見えないことに関する学問である心理学に初めてふれる学生を主たる対象とするため、「性格」についての講義から始め、その延長上に自分の性格を調べるにテストを実施して、自分の性格に関するレポートを作成させている。まず自分の心理に関して考える作業をさせた後に、一般の人々の心理について考えるという手順で講義を展開して、理解しやすくしている。

④ 本学における業務との関連性

看護学生に必要なとされる本科目を講義できる教員として学外貢献をしている。

① 担当科目名(単位数) 開講学校名

人間関係論 仁愛女子短期大学生生活科学科1、2年生(2004年度～2019年度)

② 内容・ねらい

本講義では、複数の人間が近くに存在するあるいは一緒に活動している社会的場面において、人間がそのように考え行動するのかについて学ぶ。社会的場面における個人の心理的過程、対人行動、集団と個人の関係等についての代表的トピックスを取り上げて概説した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

講義に際して工夫しているのは特に以下の2点である。①講義内容は学生がこれまで身につけてきた一般常識で理解できそうに感じられるため、授業中折に触れ、一般常識よりは一步踏み込んだ内容を講述していることを強調する、②単なる知識以上の理解をしてもらうために、学期の途中で、自分の所属する集団内での人間関係についてのレポートを書かせている。これにより、普段深く意識することの少ない自分を取り巻く人間関係について考えさせるきっかけとさせている。

④ 本学における業務との関連性

生活科学科に必要なとされる本科目を講義できる教員として学外に貢献している。

① 担当科目名(単位数) 開講学校名

小児発達評価・療育学 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学小児発達学研究科(2014年度～2019年度)

② 内容・ねらい

本講義はオムニバス講義であり、その中の2コマを担当している。1コマ目は「療育・介入・支援の技法」として、応用行動分析、TEACCH、PECS、ソーシャル・ナラティブ等について、2コマ目は中長期的視点からみた発達障害児の小集団療育についての概説を行っている。発達障害児を対象に行われることの多いこれらの技法について紹介し、これらの技法についての基礎的な知識を身につけることを目的としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

講義に際して工夫しているのは、単なる知識の伝達だけではなく、時に誤解を受けることもあるこれらの技法の本質について分かりやすく説明することである。

④ 本学における業務との関連性

小児の発達の研究に従事して、そこで得られた知識を現場にフィードバックすることの多い大学院生に、このような講義を行うことのできる教員として学外に貢献している。

(3)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文 「高等学校における特別支援教育」『生徒とともに』第 61 号、福井県高教組教育研究会議（2018 年 3 月）高等学校における特別支援教育 「発達障害傾向の学生への支援をどうするかー地方公立大学での支援の現状から考えるー」『中部教育学会紀要』第 19 号、16 頁～26 頁（2019 年 6 月）
② 著書 「職場の中のちょっと変わった人たち」大森晶夫・垂水(編著)「職場のメンタルヘルス」、2013 年 12 月
③ 学会報告等 「発達障害学生支援における家族との連携の意義 社会的自立に向けて地域ネットワークの活用」西村優紀美・日下部貴史・カズヨ・清水聡（日本LD学会第28回大会自主シンポジウム、2019年11月） 「福井県における発達障害成人の就労の諸相とNPO法人による就労支援」清水聡（日本設備管理学会北陸支部公開シンポジウム、2012年9月）
④ その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動 全国大学保健管理研究集会第 52 回東海・北陸大会シンポジスト（2014 年 7 月） カンファレンス北陸（北陸地区大学による発達障害学生支援の研究会）参加（2016 年 2 月、2017 年 3 月、2018 年 2 月、2019 年 3 月）
学会での役職など 学会・分科会の開催運営 日本発達障害ネットワーク（JDDnet）、JDDnet 福井共催「JDD ネットワークセミナーin 福井 2017」の企画・開催運営およびシンポジスト（2017 年 2 月）
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加 県立大学心理教育福祉相談室の運営および相談活動（2004 年度以前から 2019 年度） 平成 30 年度総務省戦略的情報通信研究開発推進事業「発達障害児者の特性に応じた教育システムの研究開発」共同研究者
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井大学子どものこころの発達研究センター・客員教授(2012 年 12 月～2019 年度) 福井県心身障害児就学指導委員会（委員長）（2005 年度～2019 年度） 福井県発達障害児者支援センター連絡協議会委員（副委員長）（2006 年度～2019 年度） 福井市保育所入所児発達相談専門委員会委員（2007 年度～2019 年度） 福井市発達障害支援専門家検討委員会（委員長）（2012 年度～2019 年度） 福井市特別支援教育専門委員会（委員長）（2019 年）

福井市障がい福祉専門分科会（委員長）（2019年）
第3次福井市障がい者基本計画策定委員会（委員長）（2014年度）
福井市障害者施策推進協議会（委員長）（2014年度～2018年度）
第6次福井県障害者福祉計画および新条例策定委員会委員（2017年度）
文部科学省委託「特別支援教育総合推進事業」
a. 県内専門家チームに関する連絡協議会委員（座長）（2007年度～2016年度）
b. 坂井地区専門家チーム会委員（2011年度～2016年度）
c. 巡回相談・研修会講師（2013年度～2016年度）

② 国・地方公共団体等の調査受託等

乳幼児健診後のフォロー事業における助言・相談

- a. 福井市（幼児健診後の経過観察児および保育園等で気になる児、言語や対人関係の発達等に問題がある児について、発達や育児に関する個別専門相談）（2004年度～2019年度）
- b. 鯖江市社会福祉協議会（2009年度まで鯖江市）（発達障害児を持つ保護者への相談、助言）（2004年度以前～2019年度）

福井県子ども療育センターでの自閉症児の療育に関する外来相談担当（2004年度以前～2019年度）

福井市保育カウンセラー（2010年度～2019年度）

福井市公立保育園発達記録表作成委員会委員（2013年度～2015年度）

大野市保育カウンセラー（2013年度～2016年度）

福井県立大学主管 教員免許状更新講習講師「気がかりな児童・生徒の相談・支援」（2011年度～2019年度、毎年8月）

福井県教員免許状認定講習講師「発達障害教育総論」（2017年9月16、17日、2018年8月8、9日、2019年8月5、6日）

③ 公益性の強いNPO・NGO法人への参加

NPO法人はるもにあ理事長（発達障害児者支援のためのNPO法人）（2011年度～2019年度）
社会福祉法人高志福祉会理事（2017年度～2018年度）

④ 兼業規程で業務と見なされる範囲内での企業等での活動

⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

⑥ その他

1. 発達障害関連の役職

福井アスペの会（高機能自閉症児者支援団体）代表（2004年度以前～2019年度）

福井県自閉症協会（旧（社）日本自閉症協会福井県支部）副代表（2004年度以前～2019年度）

JDD ネット（日本発達障害者ネットワーク）福井代表（2007年度～2019年度）

2. 発達障害、特別支援教育関連講演・助言等

（過去3年間の年度別のべ件数は、2017年度15件、2018年度16件、2019年度16件であった。以下には2019年度に行ったものの詳細を挙げる。）

- 1) 福井県保育研究大会分科会助言者（2019年6月）
- 2) 福井市委託 発達障がい支援者人材育成研修（初級編・中級編）講師「発達障がいの理解」（2019年5月、6月、10月、11月）
- 3) 福井市委託 発達障がい支援者人材育成研修（上級編）講師「発達障がいに関する相談」8（2019年6月）
- 4) 福井県特別支援教育センター主管 令和元年度子どもとそだちの相談会（2回）（2019年7月、10月）
- 5) 令和元年度特別支援教育研修会講師「発達障がいのあるこどもの将来について」「中学卒業後の現状や就労、福祉等について」（2019年10月）
- 6) 福井市手話言語及び障がい者コミュニケーション事例制定記念イベント内講演「障がい者とのコミュニケーション」（2019年7月）
- 7) 永平寺町PTA連合会子育て研修会講師「こどもの気がかりさについてどう考えてど

<p>う対応するか」(2109年11月)</p> <p>8) 福井県教育委員会主管 高等学校通級授業の見学及び助言(道守高校、坂井高校)(2019年11月)</p> <p>9) 福井県看護協会基礎看護教育検討委員会研修会講師「対応困難な学生の事例から学ぶ具体的な対応方法について」(2019年11月)</p> <p>10) 福井県自閉症協会主催 保護者との相談会講師(2019年9月)</p>
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
<p>① 公開講座・オープンカレッジの開講</p> <p>H31年度前期公開講座「発達障害の理解と対応～正しい理解に基づく共生の可能性について考える～」(2019年6月)ハピリン2F「福福小屋」</p> <p>第164回さばえライブラリーカフェ「ニホンザルの生態と行動」(2018年12月)鯖江市文化の館</p>
② 社会人・高校生向けの講座
③ その他
(3)その他(個人の資格で参加している社会活動等)

6. 大学の管理・運営

(1)役職(副学長、部局長、学科長)
(2)委員会・チーム活動
<p>教育研究委員会委員(2019年度)</p> <p>保健管理センター運営委員会委員(2009年度～2011年度、2014年度～2016年度)</p> <p>学生支援委員会委員(2017年度～2018年度)</p> <p>学生就職支援委員会「(障がい学生)対応要領」ワーキンググループ委員(2017年度)</p> <p>障害学生就学支援グループ員(発達障害担当GL)(2012年度～2015年度)</p> <p>ボランティア部顧問(2003年度以前～2018年度)</p> <p>カードゲーム・サークル顧問(2004年度～2015年度)</p>
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
福井県立大学内特別人権講義講師「発達障がい者との共生」(2107年6月)